

「市民参加推進力」指標による 市民参加推進計画の進捗管理について

～ロジックモデルを活用した評価・分析～

ロジックモデルとは

ロジックモデルとは、事業や組織が最終的に目指す変化・効果の実現に向けた道筋を体系的に図示化したもので、事業の設計図に例えられる。

事業が、どのような道筋で目的を達成しようとしているのかの仮説を示したものの、若しくは戦略を示したもので、ロジックモデルは一般的に、アウトカム、アウトプット、活動、インプットを矢印でつなげたツリー型で表現される。

なお、アウトカムとは事業や組織が生み出すことを目的としている変化・効果、アウトプットは変化・効果を生み出すために提供するモノ・サービスを言う。

(出典：日本財団「ロジックモデル作成ガイド」)

本日の論点

- 市民参加推進力指標を活用した第3期市民参加推進計画の分析・評価について
 - ・ 指標の期間について、長期（10年以上）、中期（5年）、短期（1年）とすること
⇒ 資料2
 - ・ 13施策の評価方法について、ロジックモデルに基づく量的な変化（数値指標による評価）を基本とし、必要に応じて質的な変化（個別の特徴的な事業の評価）も評価・分析すること
⇒ 資料2
 - ・ 施策の各項目（取組、アウトプット、短期アウトカムに係る指標）の内容について、例示の内容とすること（現時点でのイメージを確認）
⇒ 3～8ページ
 - ・ 重視する視点の指標について、例示の内容とすること（現時点でのイメージを確認）
⇒ 9～10ページ

【参考】第2期市民参加推進計画の評価方法

- ・ 19施策のうち実績の把握が可能な1～10施策を対象に実施（第3期計画の1～8施策に対応）
- ・ 1, 4, 5, 8施策については、SNSによる発信状況、ポータルサイトのビュー数、印刷物におけるユニバーサルデザイン対応状況など、施策に関連する実績を数値等で把握して評価。
- ・ 2, 3, 7, 9, 10施策については、施策に関連する特徴的な取組を他都市の特徴的な取組と比較
- ・ 上記の材料をもとに施策の進捗等について審議

1 3 施策の指標（取組・アウトプット・短期アウトカムに係る指標）

各施策における数値指標として、関連する取組、アウトプット、短期アウトカムに係る指標を記載しました。

	タイトル	本文	取組(事業)	アウトプット	短期アウトカムに係る指標
施策1	到達を重視する情報発信	政策, 施策, 事業だけでなく, 課題も含め, 市政参加やまちづくりに興味を持つきっかけのために, あらゆる主体に向けて, 必要な情報発信を行います。情報発信は, 分かりやすさとともに, 到達主義(届けたい対象にしっかり伝えること)を重視します。	京都市「市政参加とまちづくり」ポータルサイトみんなでつくる京都による情報発信	まちづくりお宝バンク進捗状況・成果ページ記事数	まちづくり・お宝バンク進捗状況記事数(前計画の5年間平均との比較)
			京都市公式ホームページ「京都市情報館」の運用	「京都市情報館」のビュー数	ビュー数の増加数(前年度比)
			SNS,アプリ等による情報発信	SNS,アプリ等を用いている事業(所属)の数等	SNSのビュー数やフォロワー数等(前計画の5年間平均との比較)
施策2	信頼や学びにつながる「市民と職員との対話」の推進	未来像と課題を共有し, 良い方向につなげていくために, お互いに抱える課題やこれから決めなければならないこと等も含めて, 職員と市民が, 互いに対等の立場で, 未来志向の対話を行います。市民にとっても, 職員にとっても, 安心安全で話しやすい対話の機会づくりを推進します。	市民協働ファシリテーター養成研修	ファシリテーター養成者数〇〇人	ファシリテーターの活動数(前計画の5年間平均との比較)
			職員による出張講義(出前トークなど)	出張講義数〇〇回(出前トーク等の出講数)	出張講義に参加した人数(前計画の5年間平均との比較)
			多様な主体が参加する機会の拡充(配偶者等からの暴力に関するネットワーク会議の取組, 健康長寿のまち・京都市民会議等)	セミナー、シンポジウムの開催数(講演等が主体であるが、プログラムの中に市民との対話が用意されているもの)	セミナー、シンポジウムの参加者数(前計画の5年間平均との比較)

短期アウトカム指標は施策でひとまとめして一つとできないかも今後検討

1 3 施策の指標（取組・アウトプット・短期アウトカムに係る指標）

	タイトル	本文	取組(事業)	アウトプット	短期アウトカムに係る指標
施策3	共創のための「多様な主体の対話」の推進	官民が連携して対等な立場で、未来像と課題を共有し、解決のために協働したり、新しい未来を共に創るために、行政だけでは解決できない取組や新しい挑戦を行います。そのために、多様な主体が、協働して、未来のために行動するきっかけとなる対話の場、情報共有の場をつくるオープンイノベーション、オープンガバナンスを推進します。	多様な主体が参加する機会の拡充(配偶者等からの暴力に関するネットワーク会議の取組、健康長寿のまち・京都市民会議等)	セミナー、シンポジウムの開催数(講演等が主体であるが、プログラムの中に市民との対話が用意されているもの)	セミナー、シンポジウムの参加者数(前計画の5年間平均との比較)
			多様な主体同士の課題解決・実践につなげる仕組みづくり(区民会議等)	市民との対話の機会数(区民会議やまちづくりカフェ等)	対話の機会の参加者数(前計画の5年間平均との比較)
施策4	市政参加の機会の充実(市政参加×はじめる)	市政参加は、民主主義で保障された市民の権利であり、また、複雑多様化する社会課題の解決のためには、政策の形成段階から市民と行政が共に考えることが必要です。市政の分野の隅々に、常に市民の知恵が反映される制度を充実させていきます。	計画策定過程におけるパブリックコメントの実施	パブリックコメントの実施数〇〇回	パブリックコメントの意見数(前計画の5年間平均との比較)
			市政参加制度の効果的な運営(市民モニター制度、政策評価制度、京都市のごみ週業務に関するアンケート調査等)	市政参加を促す事業数	市政参加を促す事業の増加数(前計画の5年間平均との比較)
			市政参加の入口見える化(「みんなでつくる京都」による発信)	みんなでつくる京都のビュー数	お宝バンクの提案増加数/年(前計画の5年間平均との比較)

1 3 施策の指標（取組・アウトプット・短期アウトカムに係る指標）

	タイトル	本文	取組(事業)	アウトプット	短期アウトカムに係る指標
施策5	誰もが参加しやすいデザイン(市政参加×はじめる)	市政参加の裾野拡大のためには、市民視点に立ち、全ての方に参加してもらいやすい場や手法を工夫する必要があり、参加のハードルを下げることや、参加に楽しみや気軽さが生まれるデザインを考えます。	SNS,アプリ等による情報発信	SNS,アプリ等を用いている事業(所属)の数等	SNS,アプリ等のビュー数やフォロワー数等
			京都市公式ホームページ「京都市情報館」の運用	「京都市情報館」のビュー数	ビュー数の増加数(前年度比)
施策6	協働の成果や手ごたえの共有(市政参加×つながる)	市政参加が継続的なものになるために、市民と行政がどのようなプロセスで政策形成を進めたか、市民と行政の協働によって、どのような成果が生まれたかなど、共に手ごたえを実感できるようにしていきます。	市政参加制度の効果的な運営(市民モニター制度、政策評価制度、京都市のごみ週業務に関するアンケート調査等)	市政参加を促す事業数	市政参加を促す事業の増加数(前計画の5年間平均との比較)
			パブリック・コメントの実施について	パブリックコメントの実施数〇〇回	パブリックコメントの意見数
施策7	次世代につながる市政参加(市政参加×つながる)	多くの市民が社会に興味を持って参加し、市民と行政が良好な協力関係をもって未来を共に創るために、子どもや学生をはじめ、社会人、子育て世代など、次世代の地域社会を担う若い世代の市政参加を推進します。	小中学校や大学等と連携した学びの場づくり(輝く学生応援プロジェクト、京都市会子ども議場見学等)	小中学校や大学等と連携した学びの場づくり数	小中学校や大学等と連携した学びの場への参加者数
			審議会等への青少年の参加の促進	青少年を委員にしている審議会数	審議会の委員となっている青少年数(前計画の5年間平均との比較)

1 3 施策の指標（取組・アウトプット・短期アウトカムに係る指標）

	タイトル	本文	取組(事業)	アウトプット	短期アウトカムに係る指標
施策8	協働する市政分野の拡大と新たな挑戦(市政参加×ひろがる)	あらゆる市政分野において、施策・事業を実施するうえで市民意見を反映することはもとより、社会的な活動を推進する企業等事業者も含めた幅広い市民の知恵と力を最大限活用し、より効果的な事業・施策運営をしています。	まちづくりお宝バンク事業の実施	まちづくりお宝バンク事業の提案数	お宝バンクの提案増加数/年(前計画の5年間平均との比較)
			公民連携課題解決推進事業	公民連携課題解決推進事業のプロジェクト数	公民連携課題解決推進事業のプロジェクト数の増加数(前年比)
			挑戦、改革に資する人材育成研修の実施	センター研修の実施数	センター研修への参加者数
施策9	まちづくりに取り組むきっかけづくり	より多くの市民がまちづくりに興味を持って参加するために、参加のハードルを低くする、楽しさや意義を感じてもらい、サービスを受けた経験から提供者になるような工夫をする等のきっかけづくりや、参加の好循環を生み出す取組を行います。	京都市「市政参加とまちづくり」ポータルサイトみんなでつくる京都による情報発信	まちづくりお宝バンク進捗状況・成果ページ記事数	まちづくり・お宝バンク進捗状況記事数(前計画の5年間平均との比較)
			職員による出張講義(出前トーク)	出張講義数〇〇回(出前トーク)	出張講義に参加した人数(前計画の5年間平均との比較)

1 3 施策の指標（短期アウトカムに係る指標（市民生活実感調査））

施策10 SDGsを背景とした多様な主体の参画促進

施策(本文)	現行計画市民生活実感調査	前計画市民生活実感調査	備考
2030年を目標としたSDGsの達成のために、多様な主体が協力することが求められる中で、これまでになく、企業や大学をはじめとした多くの主体が、社会活動、地域活動への意欲を高めています。地域の窓口である区役所・支所をはじめ各行政分野の部署とともに、行政はその意欲、提案を受けとめ、適切に政策とつなげるとともに、地域の課題、社会の課題とのマッチングや、様々な主体間のコーディネート等の役割を果たし、より多くの主体のまちづくり活動への参加を推進していきます。	12 市民・事業者等により、地域の防犯・交通安全活動が盛んに行われている。 43 学生が地域活動などで活躍、成長し、地域を活性化している。 60 様々な団体が地域の活動に参加しており、地域における支え合いの活動が活発になっている。 70 保護者や地域の人々が学校の様々な活動に参画するなど、地域ぐるみの教育が進んでいる。	54 学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。 70 地域福祉活動などのボランティア活動に参加しやすい地域づくりが進んでいる。 83 保護者や地域のひとびとが学校のさまざまな活動に参画するなど地域ぐるみの教育が進んでいる	12は単独で評価 43は旧54と、60は旧70と、70は旧83と対比で評価

調査対象：20歳以上の市民（民間企業の登録モニター）940人 ※住民基本台帳における人口構成比（性別・年齢・行政区）と整合

調査期間：令和4年5月18日～5月25日（民間企業に委託）

調査調査方法：インターネットモニター調査（政策ごとの生活実感について調査）

施策11 地域コミュニティ活性化への支援

施策(本文)	現行計画市民生活実感調査	前計画市民生活実感調査	備考
良好な地域コミュニティを維持・形成していくために、地域コミュニティの構成員たる、自治会・町内会など地域住民組織をはじめ、地域の市民活動団体や事業者、学校、大学等の各主体の交流と協働を促進することにより地域のつながりを強化するとともに、地域住民の自主的かつ活発な地域活動を支援していきます。	10 自治会・町内会等が、防災、防犯、見守り活動、町内美化等、地域のための取組を行っている。 11 地域活動にNPOやボランティア、大学、企業などの様々な団体が関わり、協力している。	18 町内会、自治会などの地域の組織の活動が盛んである。 20 多様なNPOやボランティア組織と町内会・自治会などの地域の組織が協力して活動している。	10は旧18と11は旧20との対比で評価

1 3 施策の指標（短期アウトカムに係る指標（市民生活実感調査））

施策12 持続可能なまちづくりを支援する仕組み

施策(本文)	現行計画市民生活実感調査	前計画市民生活実感調査	備考
担い手不足や新型コロナウイルス等の課題に直面する市民のまちづくり活動において、共に支援しあいながら、持続可能な取組となるために、行政の支援(コーディネート, 財政支援, 人的支援等)と、市民同士で活動を支え、理解する社会全体の環境づくりの両方を推進していきます。	<p>5 一人一人が互いを認め合い、多様な考え方や生き方を迎え入れて交流している。</p> <p>54 子どもの見守り活動など、身近な地域で子どもとの交流や子育て支援の取組が進んでいる。</p> <p>59 地域の住民が互いにそれぞれの多様性を認め合い、支え合うことで、安心して過ごせる地域になっている。</p> <p>92 身近な地域で、町並み保全やにぎわいづくりなどの自主的なまちづくり活動が進んでいる。</p>	<p>8 暮らしのなかで互いの人権を尊重し合う習慣と行動が広がっている。</p> <p>60 子どもの見守り活動など、身近な地域で子どもとの交流や子育て支援の取組が進んでいる。</p> <p>69 社会的に弱い立場にある高齢者や障害のあるひとが、地域ぐるみで見守られている。</p> <p>102 身近な地域で、自主的なまちづくり活動が進んでいる。</p>	5は旧8と、54は旧60と、59は旧69との、92は旧102との対比で評価

施策13 多様な主体の協働による社会課題解決への挑戦

施策(本文)	現行計画市民生活実感調査	前計画市民生活実感調査	備考
複雑多様化した社会課題に簡単な正解はありません。市民によるまちづくり活動が、行政も対等なパートナーの一人として含んだ多様な主体と協働し、それぞれの知恵と力を出し合うことで、大きな成果や地域課題の解決に近づこう推進していきます。	<p>49 市民、民間主体の国際交流が行われ、様々な世代で外国文化への関心や理解が高まっている。</p> <p>55 障害への理解が進み、障害のある人もない人も、認め合い、支え合って安心してくらしている。</p>	<p>13 地域の人が、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる</p> <p>69 社会的に弱い立場にある高齢者や障害のある人が、地域ぐるみで見守られている。</p>	49は旧13と55は旧69との対比で評価

重視する視点（中期アウトカムに係る指標）

重視する視点を評価する中期アウトカムとして、視点ごとに市政総合アンケートから関連する質問をいれこみました。

重視する視点1「学び」や「信頼」をはぐくむ対話の推進(まちの課題共感力)

重視する視点(本文)	中期アウトカムに係る指標(市政総合アンケート)
<p>あらゆる主体が、つながり、共に行動し、持続・発展するには、各主体が対等の立場で、安心して対話することにより、情報を共有し、共に学び合い、信頼し合えるようにします。</p>	<p>問5 市政に対する市民の関わり方は、どのような形がよいと思うか ⇒ 「よく分からない」「行政に任せる」が減るとよい</p> <p>問12 これまで市政参加やまちづくり活動の情報を得たり、見聞きしたりした媒体で、頻度の多いもの ⇒ 「市民しんぶん」、「HP」などが高まり、「見聞きしたものはなし」が減るとよい</p> <p>問13 「対話」の取組について、京都市がこれから力を入れて進めるべきと思うこと ⇒ 「よく分からない」などの回答率が減るとよい</p>

※ 市政総合アンケート
 調査テーマ：市民参加（市政，まちづくり活動への参加）について（「京都市 市民参加推進計画」策定のための基礎資料）
 調査対象：市民（民間の調査会社に登録するインターネットモニター）1,000人 回答数 1,000人
 調査方法：パソコン，スマートフォン等での回答
 調査期間：令和元年12月16日（月）～令和元年12月19日（木）

重視する視点（中期アウトカムに係る指標）

重視する視点2 次世代につながる市民参加の裾野の拡大(まちの育成力)

重視する視点(本文)	中期アウトカムに係る指標(市政総合アンケート)
多様な市民一人一人が、一歩踏み出し、主体的に取り組めるよう、子ども・若者をはじめ、より多くの方が市民参加しやすい仕組みづくりやきっかけづくり、学ぶ機会の創出など、次世代につながる、市民参加の裾野を更に広げていけるようにします。	問1 市政参加制度の認知度 ⇒ アンケートやパブリックコメントへの参加率、制度の認知度が高いとよい 問3 (市政に関連して何らかの課題を感じた際に、) 今後の「市政参加制度」に参加したいか ⇒ 「参加したい」などが増えるとよい

重視する視点3 協働による課題解決の挑戦(まちの課題解決力)

重視する視点(本文)	中期アウトカムに係る指標(市政総合アンケート)
多様化、複雑化する課題の解決に向けて、課題も含めて行政の情報をオープンにし、組織や立場、分野や世代を越えて、多様な主体が参加し、知恵と力を結集し、協働して実践する、挑戦できる仕組みを作ります。	問7 参加したことがある「まちづくり活動」 ⇒ 「参加したことがない」が減るとよい 問9 市のまちづくり支援制度の認知度 ⇒ 出前トーク、まちづくりカフェなどの事業の認知度が高いとよい 問10 まちづくり活動をしなかった理由 ⇒ 「参加のきっかけ、方法が分からない」の割合が減るとよい

参 考 资 料

市民参加推進力の定義（指標部会で導き出した定義と考え方）

（定義）

市民参加推進力は、市民参加における参加と協働を進める力で、市民参加推進計画の「重視する視点」と13の「施策」を進めることで市民参加推進力の向上を図るもの。

（考え方）

- ・ 市民参加推進計画の「目指す未来像（行政運営の理念）」の実現を目指すことから、未来像の表現「参加と協働により、豊かで活力のある地域社会の実現」から導出
- ・ 市民参加を後押しするもの。計画の達成を目指した施策の総和の結果、市民参加推進力の向上が図られる。
- ・ 市民参加推進力は、行政だけでなく、市民、事業者、大学等、地域の皆が、市政参加とまちづくりにおいてこの力の向上を目指すもの
- ・ 誰か特定の方を評価するわけではなく、京都市全体の市民参加の健康診断のようなもの。

市民参加推進力指標で測るもの（市民参加推進計画の進ちよく）

「目指す未来像」
(行政運営の理念)

「目指す地域社会の姿」
(ビジョン)

市民参加推進力指標

市民参加推進力の向上については、市民参加推進計画の3つの「重視する視点」と13の施策の進ちよくを測ることで確認。

(指標の考え方)

- ・ インプット（資源の投入）に対するアウトカム（実績，成果）を測る。
- ・ 市民の活動が向上した結果，伸び率を測る。
- ・ 指標を考える前提として，課題を設定することが重要
- ・ ロジックモデルを用いて，解決すべき課題の仮説を立てて，そこから目標を立てる。

これらを測る指標を設定

- 基本方針 1：市民との未来像・課題の共有
→ 3 施策で推進
- 基本方針 2：市民の市政への参加の推進
→ 5 施策で推進
- 基本方針 3：市民のまちづくり活動の活性化
→ 5 施策で推進
- 計画を着実に進めるための推進体制
→ 13 施策を進める 3 つの取組

- 本計画期間 5 箇年の「重視する視点」
 - ・ 重視する視点 1
「学び」や「信頼」をはぐくむ対話の推進
 - ・ 重視する視点 2
次世代につながる市民参加の裾野の拡大
 - ・ 重視する視点 3
協働による課題解決への挑戦

市民参加推進力を構成する力：3つの「重視する視点」の指標

指標名はそれぞれ仮置き

重視する視点1 ▶ 「学び」や「信頼」をはぐくむ対話の推進

あらゆる主体が、つながり、共に行動し、持続・発展するには、各主体が対等の立場で、安心して対話することにより、情報を共有し、共に学び合い、信頼し合えるようにします。

⇒ まちの課題共感力

重視する視点2 ▶ 次世代につながる市民参加の裾野の拡大

多様な市民一人一人が、一歩踏み出し、主体的に取り組めるよう、子ども・若者をはじめ、より多くの方が市民参加しやすい仕組みづくりやきっかけづくり、学ぶ機会の創出など、次世代につながる、市民参加の裾野を更に広げていけるようにします。

⇒ まちの育成力

重視する視点3 ▶ 協働による課題解決の挑戦

多様化、複雑化する課題の解決に向けて、課題も含めて行政の情報をオープンにし、組織や立場、分野や世代を越えて、多様な主体が参加し、知恵と力を結集し、協働して実践する、挑戦できる仕組みをつくります。

⇒ まちの課題解決力

重視する視点と施策の指標の構成

- ・ 市民参加推進計画の13の「施策」を3つの「重視する視点」で整理
- ・ 13施策から導き出された指標を向上させることで3つの力も向上
市民参加推進力

まちの課題共感力

- ・ 信頼が基盤にある対話が活発に行われている②
- ・ 多様な主体による自由な発想での対話が活発に行われている③
- ・ 参加が気軽に親しみやすくなり、参加者の多様性が増している⑤

まちの育成力

- ・ 市政の動きや社会・地域課題を実感として受け止められ、理解が進んでいる①
- ・ 新たな参加者への広がりが見られている⑦
- ・ まちづくり活動を知る機会、学びやつながりの場が身近に感じられている⑨
- ・ 住民同士のつながりが増し、地域コミュニティが活発に活動している⑪
- ・ 行政の支援、市民同士の支え合いなど、活動が社会全体で支えられている⑬

まちの課題解決力

- ・ 様々なかたちでの市政参加が進んでいる④
- ・ 参加と協働の手ごたえが感じられている⑥
- ・ 多様な主体の知恵と力が生かされている⑧
- ・ 新たな主体との新たな協働の動きが進んでいる⑩
- ・ 多様な主体が手を組みまとまりながら課題解決に取り組んでいる⑫

※○数字は施策番号

第2期市民参加推進計画の進捗管理方法

【評価・分析方法】

- 19施策のうち実績の把握が可能な1～10施策を対象に実施
- 各施策の推進例（施策に1～5つあり）ごとに京都市の実績と実績に対する市の認識を提示（実績とは、例えばSNSのアカウント、HPのビュー数、託児対応の審議会数、印刷物のユニバーサルデザイン対応割合など）
- 上記の材料をもとに施策の進捗等について審議

第2期計画の振り返りの方法

施策1 市民との情報共有の推進

施策の推進例

- 市民しんぶん等の広報物や、ホームページ、SNS、スマートフォンアプリを活用するとともに、民間メディアと積極的に連携するなど、より多くの市民に届く多様な方法で市政やまちづくりの情報を発信
- あらゆる主体が、京都市が保有する様々なデータを、京都のまちの現状把握や課題分析など、まちづくりの推進につながる様々な用途の素材として活用できるよう、オープンデータを推進

施策4 市政やまちづくりを「自分ごと」、「みんなごと」と感じられる情報提供の工夫

施策の推進例

- 附属機関等の非公開の会議など、内容を公開できない会議等についても、可能な限り議論の要旨等を公開

	京都市の実績	現状認識
ポータルサイト、SNS、アプリ等による情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 政令指定都市（20都市）のSNSでの情報発信状況（H30.7月） <ol style="list-style-type: none"> ① 京都市は、 <ul style="list-style-type: none"> 「アカウント数の合計」 1番目、 「フォロワー数の合計」 4番目に多い 「1アカウントあたりのフォロワー数」13番目 ② フェイスブックのアカウント数> ツイッターのアカウント数 ➢ 「みんなで作る京都」HP及びSNSの状況（関連情報：別紙1-1） <ol style="list-style-type: none"> ① ホームページの月間ページビュー数（H30.7月）：224 ② フェイスブックのフォロワー数（H30.8月）：896 ③ ツイッターのフォロワー数（H30.8月）：241 ➢ 京都市情報館のリニューアル（H29.12月実施） <ol style="list-style-type: none"> ① スマートフォン対応 ② デジタルブック（電子書籍）導入 ③ 自動翻訳導入：英語、中国語（簡体字・繁体字）語 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 公式SNS「京都市情報館」では、1日に多くの情報を発信することによるフォロワー離れを防ぐため「1日1更新」を目標に更新。 ➢ アカウント数が多く、フォロワーが分散している反面、多岐にわたってきめ細やかに情報発信を行っている。 ➢ ページビュー数は少しずつ増加しており継続して情報発信していく。
オープンデータの推進	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 「京都市オープンデータポータルサイト」への掲載（H30.11月） <ol style="list-style-type: none"> ① データセット数：275 ② 個別データの数：9,079 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 今年度は、データセット数20件増を目標としており、現時点で、12件増加。 ➢ 都市によってデータセットの取扱いが異なり、数字上の比較は困難。（先進都市である鯖江市のデータセット数は約200）

事業の実施状況や今後の方針を記載

施策に関連する事業の成果（アウトプット）を提示

【委員意見（抜粋）】
（オープンデータについて）
・個票ではなく集計結果しか見られないのでは、公開されていないのと同じではないか
・数を追うよりは質的な変化を追ったほうが有益だ。
・京都市が特に劣っているわけではなく、これを機に積極的に公開するべき。

施策5 市政への参加の仕組みのユニバーサルデザイン化

施策の推進例

- 傍聴可能な会議や説明会、ワークショップ等において、子どもと一緒に参加できる工夫、休日など参加しやすい時間帯でも開催、参加しやすい場所の工夫、通訳や要約筆記の整備、磁気誘導ループ（ヒアリングループ）の使用等を推進
- 市政や市政参加の情報発信における文章について、UDフォントの使用や点字資料の作成、多言語化など、誰もが読みやすい工夫を実施

	京都市の実績	現状認識
傍聴可能な会議等での、市政参加の仕組みのユニバーサルデザイン化	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 託児、要約筆記、手話通訳を用意したワークショップ及び附属機関等の会議（H29年度） ① 託児：附属機関等の会議 2 / 203 ワークショップ 9 / 19（各区まちづくりカフェ事業11含む） ② 要約筆記：附属機関等の会議 3 / 203 ワークショップ 4 / 19（各区まちづくりカフェ事業11含む） ③ 手話通訳：附属機関等の会議 4 / 203 ワークショップ 4 / 19（各区まちづくりカフェ事業11含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 子育て中でも参加できる工夫、手話通訳や要約筆記の整備について、庁内に向けて、積極的に周知する必要がある。 ➢ 要約筆記、手話通訳は、庁内向けのホームページで利用方法について詳しく掲載し、利用を呼びかけている。 ➢ 託児、要約筆記、手話通訳をすべての審議会等で設ける必要があるかなど、市民協働推進担当で考え方を整理する必要がある。
市政情報の発信における、誰もが読みやすい工夫	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 印刷物における、ユニバーサルデザイン（UD）対応状況（H29年度）（関連情報：別紙1-2） 1万部以上発行の印刷物のうち、何らかのUD対応をしている割合 70% 何らかのUD対応をしている印刷物：104 1万部以上発行している印刷物：148 ➢ 「やさしい日本語」に関する取組状況 ① 「やさしい日本語」を採り入れている取組 <ul style="list-style-type: none"> ・自治会加入啓発チラシ（H28.8月作成） ・京都市防災ポータルサイト「京都市防災危機管理情報館」、「京都市帰宅支援サイト」（H29.4月～） ② その他関連する取組 <ul style="list-style-type: none"> ・「分かりやすく伝えるための手引き」作成（H30.4月発行） ・「はぐくみ支え合うまち・京都ほほえみプラン」における「わかりやすい版」の作成（H30.3月発行） ・「やさしい日本語」をテーマにした研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 1万部以上発行の印刷物のうち、何らかのUD対応をしている割合について100%を目指している。 ➢ 庁内会議を通じた周知徹底、担当者向けの研修の実施等により、さらに庁内での意識向上を図る。

【委員意見（抜粋）】
 （ユニバーサルデザイン化について）・外国人が増える中、大切な視点である。
 ・傍聴可能な会議が少ないが、時代の流れにあわせて増やしていくべきだ。
 （誰もが読みやすい工夫について）・災害があった際に、外国人や旅行者にとっては避難情報が学区単位で分かりにくいという声がある。
 ・外国人、旅行者にはツイッター等を活用することも考えられる。

これまでの振り返り：市民参加推進計画の記載

- 第3期市民参加推進計画では、「第3章 第3期計画の考え方」において、「市民力」の向上について、「市民と共に、定性的かつ多面的な分析/評価」を行うことなどを記載
- また、「1 理想像の実現に向けた進捗確認」において、「市民力」は、「測ることの難しい大きな価値そのもの」としつつも、計画の着実な推進に向けて「市民力」の向上の評価についても、～議論を継続」と記載
- 市民参加推進フォーラムでは、市民参加推進計画で掲げる未来像の実現に向けて、計画に基づく取組の課題や改善点について議論（毎年度、計画の進捗を評価）

第3期計画に記載されている「市民力」について、検討を実施

市民参加推進力指標の活用方法

前回の議論及び並木委員からの提案を踏まえ、

- ① 市民参加推進力指標を用いて、京都市市民参加推進計画の施策の進捗を分析する。フォーラムにおいて計画の進捗管理として用いる。
- ② 指標を用いて、市民参加に関する事業を分析する。市民参加を進めている事業の優れた点等を導き出し、他の市民参加関連事業の参考として、市全体の市政参加・まちづくり活動の促進を図る。
- ③ 地域で活動をされる団体や、大学生が参画するゼミ・活動団体などにおける、市政参加やまちづくり活動について、指標の視点で評価・分析することでサポートする。（申し出があれば）

